

## 令和3年度 第1回京丹波町総合計画審議会 議事要旨

---

開催日時	令和3年10月27日(水)15時00分～16時35分
開催場所	京丹波町役場 議場
出席委員	藤田委員、山田委員、春田委員、山内委員、小峰委員、樋口委員、庄崎委員、津田委員、嵐委員、長谷川委員、沖委員、杉浦委員、谷委員、湊委員
欠席委員	安谷委員、湯川委員、山本委員
理事者	太田町長、
事務局	中尾参事、山森参事、松山課長、下村

---

### 【会議資料】

- 資料1 京丹波町総合計画審議会委員名簿
- 資料2 京丹波町総合計画審議会設置条例
- 資料3 地方創生及び総合計画の推進に関する考え方
- 資料4 京丹波町総合計画審議会部会設置規程
- 資料5 部会編成用シート
- 資料6 第2次京丹波町総合計画（後期基本計画）の策定について

### 【次第】

1. 開会
2. 委嘱
3. あいさつ（町長）

ご多用のところ、総合計画審議会にご出席いただきありがとうございます。次回の会議からは新庁舎での開催になる。住民の皆様のご支援で新庁舎が完成した。本庁舎は62歳になる。新しい庁舎は防災などの拠点であり、また町の木材を活用した環境に優しい庁舎でもある。本町のまちづくりの中心となるように、職員一同努力していきたい。

委員の皆様には、日ごろから町行政の推進にご協力いただき、ありがとうございます。皆様には2年を任期として委員をお願いする。本会議は総合計画、総合戦略の実効性を高めるための、審議・検討の場となる。今年度から来年度まで、後期基本計画の策定を2年間で行う。皆様には例年以上に会議に出席いただくことになる。平成29年の前期基本計画策定時にはまったく予想もなかった新型コロナウイルス感染症の発生など、生活様式を大きく変えるような出来事があった。こうした社会情勢を踏まえ、施策の方向性の修正の検討も必要であると考えられる。着実に将来像の実現に向けて進んでいく必要がある。

このあと互選いただく会長、副会長を中心に、委員の皆様が行政の取組に対して忌憚のない意見をいただく場となるよう、お願いしたい。また、本町の地域特性を生かして、活力あるまちづくりができるよう、ご協力をお願いしたい。

4. 委員の紹介

5. 会長・副会長の選任について

会 長：春田委員

副会長：小峰委員

【会長あいさつ】

会長にご指名いただいた。自身は前回から会議に参加しており、何もわからないが、皆様に教えていただきながら、務めたい。本町の指針になるため、様々な意見を伺いながら、計画を策定したい。

【副会長あいさつ】

春田会長様より副会長にご指名いただいた。不慣れで至らない者であるが皆様のご協力で務めたい。それぞれの立場からご意見をいただき、なごやかな雰囲気の中で策定を進めたい。

6. 諮問

7. 総合計画審議会の所掌事務、部会編成等について

8. 令和3年度の審議会の開催等について

9. 協議事項

【第2次京丹波町総合計画後期基本計画の策定に向けて】

事務局：「資料6」等を用いて説明。

【京丹波町創生戦略に係る事業評価について】

事務局：「別添資料」等を用いて説明。

【委員から一言】

委員：丁寧の説明頂き、ありがたい。会議の前に資料に目を通していたが、目を向けなくてはいけない町の取組を知っておくべき立場にいるにもかかわらず、知らないことがあった。自分でHPを見に行くという姿勢は必要だが、だれもがそうした姿勢を持っているわけではない。HPなどでの発信は重要だが、高齢者もいるため、アナログな発信手法の充実もお願いしたい。また、子育てに関して、コロナ禍で横のつながりが難しい中で、学校や保護者とのつながりを大事にしてほしい。

委員：専門とする農業分野については、ある程度専門にしている。行政に協力しているし、この計画の中にも反映していきたい。京都府の森の京都DMOは観光を中心にやっているが、これに付随した委員会などの上位団体との連絡調整、整合性がとれているかどうかという点が気になる。頭の隅に置いていただきたい。

委員：高齢化が進んでいて、空き家が増えている。地域的に区の行事へ参加する若者も減っている。今後は、空き家も多くなる。空き家を活用したお試しの移住制度もあるが、なかなか利用される方が少ない実態がある。要因の一つとして、そうした空き家と畑がセットになっていないということもあるのではないかと。そうした内容も検討いただきたい。

委員：京丹波町は83%が森林で、新庁舎も町の木材を扱っていただき、地域資源が活かされて

いる。子どもたちに向けての環境教育の取組もはじまっている。2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて、そうしたところにつながる取組の検討もお願いしたい。

委員：自身は観光協会の推薦で参加している。元々は農業のためにここに住んでいるが、観光と農業はセットであるという想いを持っている。農業をしっかりやって、京丹波町を賑わいのある町にしたい。先日、HPを確認したところ、京丹波町の人口は13,400人を切っていた。関係人口や交流人口という言葉が、2年ほど前から一人歩きしている。観光のお客さんはきているが、本当に京丹波町につながっているのか、という疑問がある。移住につなげていかないと、急がないと手遅れになる。もう5年もすれば、今頑張っている農家がリタイアする。そうなれば、黒大豆や小豆といった農業が基盤の京丹波町の農業がずさんになる。我々もやりたいが、そこまではできない面もある。自給自足的循環型社会を目指すのであれば、具体的にその実現に向けた取組をみせてほしい。

委員：改めて計画を見て、いろいろ考えることがあった。一般の住民の方にどの程度計画が浸透しているのかという、課題もある。計画を策定するだけでなく、住民に近い、わかりやすい計画とし、それが広く伝わることも重要。評価に向けて、自分が関連する事業も、総合計画の中での位置づけを改めて認識した部分もある。我々も知ろうとしなくてはいけないと感じる。

委員：はじめて参加する。京丹波町は観光は好調である。だが観光だけで終わらず、生活に結び付けて、循環していくような基盤にすることが重要である。新庁舎が完成し、外向けにもアピールできる。観光で見に来る方もいると考えられる。こども園も立派である。外向きに利用しつつ、それを住民の生活につなげていく必要があると考える。

委員：町内で事業をしている。道の駅なので、観光客が多い。10月という時期は、黒豆街道マップを持って、町内の様々なところを回遊する人が多い。このマップは6~7年前に観光協会を担当していた町の職員が作ってくれたと記憶している。そのときから比べれば、年々訪れる人が増えている。もちろん京丹波産の黒豆の品質はいい。だがそれだけでなく、継続したPRをしてきたからこそ、ここまでの人気を得たのではないかと感じる。1年前と比べてもこの時期に町を訪れる人が2割は増えていると感じる。10月は特別な時期である。京丹波町には誇れる農産物や景観がある。担い手の問題はあがるが、誇れるものを継続してPRしていくことが、観光にとっては必要である。自身もお手伝いできる部分はしていきたい。

委員：自身は農業をやっている。周囲には高齢者が多い。兼業農家の方には若い方もいるが、専業の方は高齢である。見ていても不安になる。コロナで世の中が大きく変わる中で、都市から地方への移住の動きもある。農業にも興味を持っていただけるように、PRしてはどうか。デュアルライフでもいいので、京丹波町を選んでもらえるように、PRしていく必要があるのではないかと感じる。

委員：質美小学校が閉校し10年になるが、その校舎を活用して、現在7店舗が営業している。緊急事態宣言中であっても、多くのお客さんが来られる。田舎だからこそ、安心して京丹波町に来ることができるという声がある。子ども連れなど、多世代の方が来られている。ただ、立ち寄って食事をするだけでなく、何度も足を運んでくださる。住むにもいいという声もある。今、どういう状況なのか、何を求めてこられているのか、というところを肌で感じている。もっとつながりがあれば、こうしたニーズを活かしていけるという気持ちがある。特に若い世代のリピーターが多く、例えば丹波自然運動公園に来たが、雨が降ったので質美小学校に来たというケースもある。連携が取れていれば、もっと地域を循環していただけるような広がりがつくれると思う。自身は観光協会ではないが、町の情報を知っていれば、お客さんの希望に応じ

て、他の施設を紹介したり、様々なニーズへの対応もできる。また、計画を見れば、取組の狙いもわかるが、住民には届いていないように感じる。伝えることが難しい。新聞に載るなどのきっかけで、はじめて知るようになる。チラシや耳できくだけではわかってもらえない。知ってもらえてないことが残念である。アピールの仕方や、もっと周囲でされていることを知りに行く、ネットワークをつくることができれば、もっとよくなるのではないか。

委員：会議で資料を見る中で、観光や農業、介護、多岐に渡ってのことで知れて、勉強している。自身は子育て世代代表ということで、子どものことについて言うが、保護者同士のつながりがコロナの中で薄くなっている。コロナの最初の頃は施設や公園にも入れなかった。少しずつ変わってきて、学校がはじまり、勉強や友達と遊ぶことも子どもにとっては大切なことだと改めて実感した。学校行事も徐々に再開され、運動会や修学旅行も現在はほとんどの学校が実施していると思う。一方で、家にいる時間が長くなったことで、SNSなどに慣れ、外に出ることが怖くなっている子どももいる。心の安定は重要で、公園など、子どもがのびのび過ごせる環境を地域で整えることが重要である。そうすることで、例えば地域の農業に関心を持ったりすることにもつながるのではないか。子どもたちにとって、良いふるさとになるようにしたい。

委員：丹波自然運動公園は魅力のある施設というアンケート結果の説明もあったが、アスレチック広場が11月3日にリニューアルオープンする。すでにお問い合わせの連絡もいただいており、町内外から利用誘致を期待している。また先ほど、質美小学校の件でのご意見にもあったが、そうした連携はぜひお願いしたい。もう一点、京都府の総合計画のエリア構想で、市町の関係団体や大学、事業者等の連携による地域プラットフォームが設置されている。その中で、アスリートの育成支援、スポーツコミッション、健康地域づくりの3グループにわかれてワーキングが行われている。地域資源を生かしたスポーツと、健康先進地域づくりの宿泊客誘致ということで取組が進められている。また、サンガスタジアムを発着点として、丹波自然公園がサブ発着点ということで、京都丹波サイクルルートの設置などが進められている。そうした京都府の施策と京丹波町の計画との整合性も精査して進めていく必要がある。京丹波町への人の流れづくりや観光につながっていくと思う。

委員：コロナで区でもなかなか行事ができない。まずは高齢者対応、青少年対応、乳幼児対応、行事ごとに単発ではなく、世代間交流をしたいと思い、取組を検討している。自分の世代の行事でなくても、関係ないではなく、関係づけるようにしていきたいと考えている。マンパワーの掘り起こしが重要。例えば老人会の行事に若い人の力を入れていくということも必要である。本日、皆様の意見を聞きながら、様々なやりたいことを思いついた。

#### 10. 次回の審議会について

#### 11. 閉会

会長：長時間にわたり、協議いただき、ありがたい。第2次の計画策定に向けて、皆様のご意見をきいて、協議していきたい。町長から諮問いただいた点も、しっかり協議していきたい。この審議会が委員の皆様の情報交換の場にもなれば良いと考えている。

以上